

親しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



No.45
令和3年6月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <http://myojuji.or.jp>



ぬり絵「涅槃図」ご奉納

当山は、宗祖日蓮聖人聖誕800年記念事業としてお釈迦様の涅槃図を仏画師中村美希女史に描いていただきました。その作品をぬり絵として、檀信徒の皆様にお勧めしたところ、それぞれの祈りを込めたぬり絵を、幅広い年齢層の方々からご奉納いただきました。本堂に上がる通路のスペースに展示しております。引き続き、奉納を受付けておりますので、ぬり絵用紙をご希望の方は、当山までご連絡いただければ、郵送いたします。



金武冴織さん



内藤眞木子さん



齋藤節子さん



山崎くに子さん

〈奉納者ご芳名〉 5月10日現在・五十音順

伊藤三枝、今木久子、金武冴織、黒田輝代、齊藤昭彦、齋藤節子、齋藤竜之介、醍醐ハルノ、田中佳子、中馬左行、中馬洋子、内藤眞木子、永野悦子、萬羽弘一、みさき、森昌子、山崎くに子、山本輝子（敬称略）



ぬり絵「涅槃図」山本輝子さん

当山総代であり、本堂再建設委員長をお務めいただいた内田祥哉先生（東大名誉教授・日本学士院会員）が、去る5月3日、老衰によりご逝去されました。享年96歳。同7日、ご自宅でご親族による葬儀は、当住上人、佐々木明乗上人にて厳かに執行させていただきました。内田先生は、建築構法と建築



内田祥哉先生

生産システムを研究、プレハブ住宅から超高層ビルの建設に至るまで日本の建築界に多大な影響を与えました。在来の木造建築も再評価し、現代に見合う構法の研究と普及に努めました。建築家として佐賀県立図書館や同博物館などを手がけ、教育者としても母校の東大で教壇に立たれ、建築家の原広司さん、隅研吾さんらを育てられました。日本建築学会会長を務め、また、日本建築学会大賞を受賞。ご尊父は建築家で東大工学を務めた内田祥三先生。（読売新聞5月8日版より一部抜粋）

去る5月8日、当山総代・山貞合名会社会長山木宏之氏のご逝去されました。享年80歳。山木家は「山貞」の屋号で木場材木商を営み、ご先代もご総代をお務めいただきました。同12日、13日、桐ヶ谷斎場において、当住上人、佐々木明乗上人および当山弟子職員にて通夜葬儀をお勤め申し上げます。



山木宏之氏

追悼

内田祥哉先生、山木宏之氏のご冥福をお祈り申し上げます。



寺日記

てらにっき

- 2月25日 小西日蓮院下（大本山本興寺首）第百三十二代法華宗管長推戴式 於尼崎同大本山①
- 3月1日 大野家仏壇遷座抜魂供養
- 3月10日 東日本大震災十周年・東京大空襲慰霊法要 於当山本堂②
- 3月11日 東日本大震災十周年・東京大空襲慰霊法要 於宗務院仏殿③
- 3月20日 春季彼岸会戦災慰霊・中日合同法要
- 3月23日 TV「俺の家の話」道成寺梵鐘、当山に到着④
- 4月6日 先々代日照上人祥月命日忌法要（正当12日宗祖像遷座供養）
- 4月8日 鳥山仏教会花まつり法要（個別寺院法要）
- 4月9日 法華宗千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要
- 4月15日 猿江別院 新家屋地鎮祭
- 4月18日 小佐野章氏内室夫人三回忌法要⑤
- 5月3日 内田祥哉先生（当山総代）ご逝去猿江稲荷社例大祭法要（協力会社・職員出席）⑥
- 5月6日 献茶式 大宮八幡宮⑦
- 5月8日 山木宏之氏（当山総代）ご逝去
- 5月8日 山木宏之氏（当山総代）ご逝去
- 5月29日 下谷・感応寺入山式

当山境内に絶滅危惧種花「ギンラン」



ギンランは日本の野生蘭のひとつで、かつては雑木林や里山の林下のどこにでも見られた花でしたが、今や絶滅を危惧されています。花期は5-6月。来年も出会えますように。



⑤ 大正11年5月27日生99歳の小佐野氏

⑥ 撮影直前に全員マスクを取りはずしています

法要のご案内

（別紙参照）

本年はコロナウイルス感染の拡大防止のため、時間割を変更しております。

孟蘭盆会施餓鬼法要

7月16日（金）
新孟蘭盆会法要（新盆） 午前11時
孟蘭盆会法要 午後2時

秋季彼岸会中日法要

9月23日（木・祭）
初座 午前11時 第二座 午後2時

宗祖第740遠御忌御会式

11月3日（水・祭）
御会式法要 午後2時

新規墓所ご案内

3尺×4尺=6基 3尺×3尺=6基
2尺×2尺=8基

詳細は当山までお問い合わせください。

当住上人の

宗務院 DIARY

- 3/5,4/5,5/14,5/28 内局会議
- 3/9 宗会議員選挙開票立会い
- 3/15 学務協 於尼崎学林
- 4/5 責任役員会議
- 4/9 宗祖等奉讃会総務会
- 5/10 宗務院監査、(公財)全日本仏教会監査(WEB)
- 5/12 (公財)日本宗教連盟監査
- 5/19 (公財)日本宗教連盟理事会(WEB)
- 5/20 (公財)全日本仏教会理事会(WEB)

正隆会

[SHORYU-kai] 午後2時開催

月例講 ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆会前法要を奉修しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため離隔距離をとり、実施いたします。

- 6月12日 勉強会「日蓮紀行」拝読 13
- 7月10日 写経会
- 8月 休会
- 9月11日 勉強会「日蓮紀行」拝読 14
- 10月9日 勉強会「日蓮紀行」拝読 15

第11回 竹灯籠能・落語会



竹灯籠能「社若」 × 一之輔落語

浅見慈一 師

春風亭一之輔 師匠

令和3年11月20日(土)
於 妙壽寺本堂
開演 13:30(開場 13時)

猿江別院御写経会

次の日程で、すべて午後1時より午後7時まで開催。

- 第21回 6月3日(木)
- 第22回 8月12日(木)
- 第23回 10月14日(木)

参加費：500円
(御写経御手本・半紙・美味しいもの)
*御写経御手本・半紙・書道用具ペンはご用意いたしております。

椿の「浮き花」



散る時に、花首からぼとりと落ちる椿の「浮き花」。ちなみに、椿によく似た山茶花(さざんか)は、花びらが一枚一枚パラパラと散るようです。

- 鶴沼・晴明庵 4月20日 報恩法要
- 桑港・日蓮教会 5月8日 WEB理事会
- 猿江・猿江別院 4月8日 写経会

宗祖聖誕 800年記念・本堂落慶35周年記念インタビュー

山崎くに子夫人に聞く
「五家のファミリーヒストリーと妙壽寺」

聞き手 三吉廣明上人 令和3年1月29日 於・妙壽寺猿江別院

住職 今日は山崎くに子さんにお越しいただき、「五家のファミリーヒストリーと妙壽寺」についてお話を伺います。

今日のお話は、先々代日照上人の時代です。当時はお檀家さんとお寺が密接にお付き合いをさせていただいており、今はもう時代が変わり、なかなかそのようなお付き合いは少なくなっております。

山崎さんが作成した、ご自身のかかわりのある五家の家系図をもとに、また、いずれも妙壽寺とご縁がありますので、そのあたりをお聞かせいただきます。



「うなぎ風物誌」 川口昇著

「ときわ木」のお正月用干菓子

妙壽寺における大和田家の墓（「うなぎ風物誌」より）



三吉廣明上人と山崎くに子さん

たので、元太郎の妻とみか、私が面倒を見るとき、生後5日目から6日目くらいに引き取って育ててくれました。

住職 ことして見ると家系図の威力というものを実感付けれ、家系図は非常に大事だということに改めて思いました。それぞれの世代の背景があって、どういつつつながりになっていくかがよくわかります。

今も、ときわ木さんから数十年先かきず、正月二が日の参詣者にお出する松竹梅のお干菓子をいただいております。（写真参照）大変ありがたいことです。森常太郎さんから戦争中の話を、また、写経会によく一緒される森昌子さんの亡くなったご主人の養之助さんからも聞いていました。常太郎さんは銀座の清月堂（明治40年創業の老舗）で修業され、その清月堂がときわ木の二つ基になっていると同じです。

山崎 常太郎さんは、19歳のときにお父さんの確蔵が亡くなっています。跡を継いで板場に入って職人たちと一緒に菓子を作るのを習い始めたのですが、20歳で徴用され、昭和20年に引き上げられたんです。その間に常太郎さんの母かねさんは焼け出されて妙壽寺に身を寄せました。

住職 かねさんが妙壽寺にいたのですか。

山崎 はい。母が身を寄せたお寺に常太郎さんもついて二男の養之助さんも復員してきました。終戦後、昭通りに面したときわ木の地所は譲渡するよう相当強固にあったようですが、かねさんは一生懸命守り、そしてときわ木を再建しました。当時の女性としてみれば、あの戦後の荒々しい世相の中でよく頑張りました。叔母は偉かったです。尊敬しています。

住職 「木挽町ときわ木」の石川家は、友次郎さんが分家したのですか。

山崎 「ときわ木」を名乗って木挽町に開店したのは元太郎で、初代日本橋「ときわ木」から分家したのです。それは、大正初期の頃でした。

それより数年前になりませんが、元太郎の妹かねに縁談がありました。父友次郎の亡き後、母のたまは年頃になってきた三人の娘が気がかりでした。すると知り合いから娘のかねにどうかとお話があって、清月堂にこういふ人（結婚相手に）がいるから、羊羹を買って行っておいでと。そこで確蔵さんと会い、お見合いで結婚したんです。

住職 その後、一方の森家はどうかですか。

かりませんが、確蔵さんは結婚して1、2年にとにかくちゃんとお店を持とうということになって、娘婿のためにたまさんも幾らか出資したようです。それで明治43年日本橋に「千代田橋ときわ木」を出店しました。たまさんも、職人たちのお勝手場のほうをみてあげるからと、かねさんと一緒に森家へ来たんです。

住職 石川家はどうかして「本郷ときわ木」をやったようになったのですか。

山崎 元太郎さんは、最初どこか河岸に勤めたと言っていました。けれど、義理の兄さんがお菓子を作るのを見て、自分もお菓子を作らうかと思つたのではないのでしょうか。元太郎さんは、確蔵さんのところへ弟子入りしちゃったわけですね。割と器用な人で、早くお菓子の作り方がよくできるようになって、そうしたらお嫁さんをもらったほうがいいだろうと、たまさんや確蔵さんたちに言われて、大和田の川口とみさんと所帯をもって、木挽町の歌舞伎座の楽屋口の前に「ときわ木」という名前でお菓子屋を出しました。

住職 すごくですね、歌舞伎座のところにとは。

山崎 その頃は木挽町と言っていました。関東大震災で焼失後は昭通りになるからと一帯は立ち退きになりました。それで今の本郷通りから団子坂千駄木へ抜ける通りで、蓬萊町（旧地名「ときわ木」を開店しました。その辺り一帯は寺町です。本堂に一文（約3メートル）の木彫りの観音様を祀つたお寺があって、通りには毎年6月末に四万六千日の縁日が出るので楽しみにした。

そのお寺から団子坂に差し掛かる所を曲がると法華宗の宗務庁があって、日照上人様がよくお店の前をお通りになる時、お声をかけていただいた思い出がござります。

住職 そうなると次に丸山家が「大阪ときわ木」とは驚きました。丸山家と石川・森両家とはどう関係ですか。

山崎 丸山家の千代は私を産んでくれた実母で、石川元太郎の末の妹です。

住職 それでは、大阪のときわ木に行かれるのはどなたですかね。

山崎 丸山吉之助はやはり河岸かどこかに勤めていました。森確蔵さんを見ていて私もお菓子をやってみようかと。妻千代の姉さんがいるときわ木へ習いに行つて、それで四谷にお店を出したんです。

住職 四谷三丁目と同じですか。

山崎 ええ。それで、大震災の後に大阪に行くわけですね。結局、吉之助にしてみればおかみさんが亡くなって、子供はばらばらになったわけですね。

住職 昔はお子さんを養女とか養子に出すことが多かったですね。家長制のため家を存続させることが使命で、そうすることが普通だったのでしょうかね。

うなぎ「大和田」「山初」ヒストリー
住職 私がともかく読んで感動したのは、

川口昇さんの『うなぎ風物誌』（写真参照）です。著者の言葉によると、「古いうなぎ屋の、しきたり、内部の模様にあわせて、世俗風俗といったものをここにまとめあげた」という内容です。「おやし橋 大和田」の初代宇兵衛さんから話が始められますが、川口家と丸山・石川両家とはどのように関係しているのでしょうか。

山崎 結局、川口家の墓は猿江の妙壽寺にありました。それで、山中家と石川たまさんと姻戚関係だったんです。川口万吉とみねさんの間に13人の子供がいました。それで、なほさんは杵屋栄蔵という芸術院賞を受賞した長唄の家元に見初められて結婚。万吉さんは残つたとみねさんを気にかかつてしよつがなかつたらしいです。

そうしていったら、ときわ木に修行している石川元太郎さんがいるけど、どうだろうかとこのこと、とみさんがお嫁に行きました。

住職 それで石川家とつながりができたということですね。

山崎 そうですね。元太郎さんは割と若い頃から信心深かったから、たまたま川口家へ結婚の報告に行つて、妙壽寺へお参りしたのが縁の始まりのようです。

住職 お檀家さんになったのは、石川家のほうからですね。だつて、川口家は江戸の文化・文政からの縁ですか。

住職 けれど、「大和田」といううなぎ屋さんは山ほどありますね。

山崎 川口万吉さんが「大和田」の「のれん」を下ろす時、商標権を知っていたかどうかはわかりませんが、店仕舞いした後、あちこちで大和田という鰻屋さんを見掛けるようになったんです。それは昭和7年頃のことでしたでしょうか。

住職 本の函画は、国芳が描いていますが（江戸川一今の蔵前から吾妻橋まで一鰻を掻いている図、江戸の都市文化が花開くとともに、食文化も発展して、庶民も食を楽しむようになって、食の番付が流行るようになった）ということですね。川口家の墓の図も掲載されていますね。川口家の墓の図も「おやし橋 大和田」の初代川口宇兵衛が江戸時代の鰻の番付に登場したというのが大変なことですね。

山崎 この本をうちに置いておいて、私が死んじゃったら、もう後片づけの人たちは何も知らずに処分するのでは。妙壽寺さんの書庫の片隅にでも置いておいていただければ、捨てられずに済むかと思つてお願ひしました。

企業統制でみんな商売を強制的にやめさせられたんです。ちよつとでもお店を開けていれば、すぐに経済警察が入つて引張りちやう。だから、16年頃から日本中の街という街は、本場に商店がなくなりました。

住職 山崎さんご自身は、昭和の初めから平成、令和の時代の移り変わりを目の当たりにしていますが、家族のつながりというのも非常に変わってきていますね。

山崎 家族同士で思いやるといふ、もちろん親子の関係とか兄弟はそんなに昔と変わるわけではないですが、社会全体が思いやるといふことが薄れていきます。これについて山崎さんはどう思われますか。

山崎 それは大いにあります。もう、ひしひしと自分の身を感じますね。

住職 我々の法華宗は、結構おせっかいな宗派で、自分あまり大したことはないのに、人のことをあやぢやない、こつぢやないといつて面倒を見るようなところがあります。昔は町内で、口入れではなく仲人があつて、人と人を引き合わせた。そういうおせっかいな人が結構いましたね。

山崎 日照お上人様は、産まれてすぐに母親を亡くした私のごとをずっと気遣つて下さつたのです。昭和24年度、会社に就職できたことをお話ししたら、お洋服の布地を下さつたのです。その頃は、まだ純毛の布地は貴重品でした。早速日本橋の白木屋（後の東急百貨店）でオーダーしました。お上人様の「これでスーツを作りなさい」とは、今でも忘れられないひとことですね。

住職 私たちが戦前の人とのつながりを歴史として見聞きするということは、大変大事なことだと思います。そういう時代を経て今があるわけですから、これからの人間関係の在り方、本当の意味でお寺が必要にされるということも、我々が歴史をきちんと考えていくことは非常に大事です。

山崎 幾度か駄目になつちやうかと思つていたらどうか、かんとか……。姉のらく子は104歳です。だから、姉が何とか生きていますから私も生きるのかしらと思つちやいますけど、こればかりは分かりませんものね。幾つまでというのは。

住職 でも、これだけ長くお寺をみてきておられます。私が生まれる前の祖父のことを、外にはよかつたけど、内には厳しかったと教えていただきました。私はそつと話を聞くとちよつと自分のやつていふことを考えて安心します。

妙壽寺 がそつとつ伝統も残しながらこれからお檀家さんとの関係をつないでいきたいと思つています。

山崎 そつとですね。私も陰ながら拝見しておられるなと思つています。

住職 今日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。